

超改訂版 序

医療界において機器の発展は目覚しく、それに伴う技術向上も見られてきています。放射線分野においても CT, MRI は劇的に発展・進化してきました。CT ではマルチスライス CT (MDCT) の登場以来、画像診断を覆す勢いで多彩な画像の出力や検査目的に適応した様々な撮影方法や造影方法で CT 検査を行うことが可能になりました。

現在 MDCT はさらなる多列化, 自動化, さらに深層学習を用いた画像再構成など様々な技術革新が施されており, 新人を含めた CT 検査の経験の少ない診療放射線技師でも検査を容易に遂行できるようにはなりましたが, 反面, 自動化等により撮影や造影剤注入条件の基礎, さらに三次元画像におけるデータ収集方法や画像作成の基礎などを習得する機会が少なくなったと感じております。

その解決のため CT 装置や技術の進歩に対応すべく学会をはじめとして多くの研修会や勉強会が開催され, また様々な書籍が刊行されていますが, それらの書籍では臨床例は提示されていても, どのような設定で得られた画像かが不明なものも多いと考え, 2006 年に『超実践マニュアル CT』を CT 検査の基本, 解剖, 撮影条件の設定や画像作成コツなどを要約した現場の業務に役に立つ実践の書として, マルチモダリティシンポジウム (VERSUS) が監修し発刊させていただきました。すでに初版から 20 年近く経ち, CT 装置も 4 列や 16 列 MDCT が中心だった時期から現在では 80 列 MDCT や 320 列面検出機 CT、さらに Dual Source CT など当時の CT 装置のスペックとは大きく異なり, それらの CT 装置に適した内容の変更が望まれ今回の改訂版の発刊となりました。

超実践マニュアルは初版から最低限のレベルをいかに上げるかが焦眉の課題であると認識し, 本シリーズにおいては理論より実践を重視しており, 今回も同様に CT コンソールの傍に置いていつでも CT 検査に関することを復

習していただけるような内容にいたしました。改訂版となった本書を手に取り日々の多くの診療放射線技師の方が適切な CT 検査を行なっていただければ幸いです。

最後に、本シリーズの出版にあたって医療科学社の方々を始めとして多くの分野の方々のご協力・ご助言・示唆をいただきました、すべての皆様に深く感謝の意を表したいと思います。

2024 年 3 月吉日

平野 透